

持経宿↓前鬼間の奥駆道巡視・整備
(滝川辻に非常用食品等デポ、奥守岳に摩看板設置)

◇実施日… 2021年4月24日(土)～25日(日) 晴

◇参加者… 沖崎吉信、児島道夫、梶野照雄、青木宏充、坂田洋子
高橋桂太、畑林秀味(車回送) 7名

4月24日(土)

午前11時、前鬼口バス停に集合としたので、新宮組3人は午前9時30分沖崎、畑林の2車で出発した。

池原のスポーツ公園駐車場に畑林車をデポし、11時少し前に前鬼口に着く。梶野、青木、坂田の3人はすでに到着していた。青木君は前日の夜遅く急遽参加すると連絡をくれた。

打合せもそこに小仲坊に向けて3車で出発。林道ゲート前には10台位の駐車車両があつて、コロナ過の中、我慢も限界か、大自然の中なら大丈夫と思うのか、釈迦ヶ岳の人氣がうかがえる。

連休も間近で、去年は少なかった行仙宿、持経宿の来宿者数に期待が膨らむ。

午前11時半前小仲坊に着く。五鬼助さんは体調が芳しくないとのこと、奥さんとご子息の義峰さんのお二人がおられた。

御供(日本酒一本)と畑林君持参のマグロのセセリをお渡しして、縁側でお昼ご飯とした。



前鬼口に集合



小中坊で昼食持



経宿に到着

昼食を終え、出発する少し前に若い女性2人が下山してきた。楊枝の宿を早朝に出て、今着いた。途中道はかなり荒れていた。とのことだったが、具体的な場所は確認できなかった。

小仲坊に梶野、青木車2台をデポ、沖崎車に荷物を移して6人が乗り込み白谷林道ゲートへ向けて出発した。

国道は車も少なく順調に走行、一時間弱、午後2時頃にゲート前に着く。ゲートから先の状況が気になる所だが、村吉さんが22日(木)から持経宿に入り、一泊されて白谷林道の情報を提供してくれていた。3km過ぎて4km過ぎまで3か所道の崩れがあり、平治谷過ぎも要注意とのことだった。時速20km以下のゆっくりとしたスピードで進み4km過ぎの要注意地点もクリア。7km位まで来たとき前方にダンプカーと中型のユンボが見えた。ユンボは道路に張り出した枝をバケットで器用に折り、除去していた。林道が広くなった場所ので重機を追い越して先に進む。1kmほど先で白い軽ワンボックス

がやってきた。先ほどの重機の関係者の様なので、停車して声をかける。

十津川村小原の太田建設さんで、白谷林道の整備に今日から入った。持経宿の奥、7〜8kmの正法寺谷出合付近まで整備の予定で、今そこまで下見に行って帰ってきたところだそうだ。3日間で整備を終える予定で、受注した工事ではなく、あくまでもボランティアと話された。

ここまで車を降りて落石除去する事も無かったが納得。ゲートから45分で持経宿に着いた。



水場は水量多し



煙突の煤掃除



まだ2時だ、夕食までは十分時間がある。それぞれが作業を始めた。児嶋さんは煙突の煤取りにかかる。今日の予定を伝えた時、昼頃に持経に入れないか？と注文があったが、色々作業メニューを考えていたようだ。小屋のメンテナンスを常に思ってくれている。有難いことだ。梶野君も水場へ行ったり、掃除機をかけたりで忙しい。青

木君は夕食のおかずにと、コシアブラを採取に。坂田さんは児嶋さんの助手などをする。



重機2台が到着



夕食



コシアブラ、ハリギリの天ぷら

作業が一段落した午後4時過ぎ、太田建設の重機が持経宿までやってきて、すぐ先の広くなっている場所に駐車した。運転手と5分ほど立ち話をする。日曜日は休んで月曜日から作業を始めるそうだ。話が終わった頃に高橋君が到着した。

高橋君は連休中に本宮から吉野までの奥駈縦走のため、下見・トレッキングを重ねていて、今回もその一環として金曜日に前鬼から入山、持経宿に一泊。翌土曜日に持経宿から行仙宿までを往復、日曜日は我々と共に前鬼に下山することになっている。

高橋君が到着し、全員が揃ったので夕食の準備を始めた。テーブルには畑林君差し入れのマグロの刺身、マグロのホルモン、イカ、アジのお造りの他、キヌウリもみ、漬物、ウインナーやアスパラガスに加えて現地調達のコシアブラやハリギリの天ぷらなど

山海の珍珠が並び、料亭並みのメニューとなった。

6人で乾杯し宴会がスタート、久々の青木節を聞いて大いに盛り上がる。「おにやんま君」の売れ行きが好調で、12時間以上作業を続けた日もあったようだ。

行仙宿のストーブに続き、持経宿にも寄贈する、モノレール延長にも協力する。と大変ありがたい申し出もいただいた。

午後6時半頃、児嶋さんはストーブの横で眠りについた。

話は尽きないが、明日は早出なので、午後9時前に発電機を止めてお開きとなった。

行動タイム

11:00 前鬼口→11:21 小中坊 12:05→13:58 持経宿

4月25日(日)

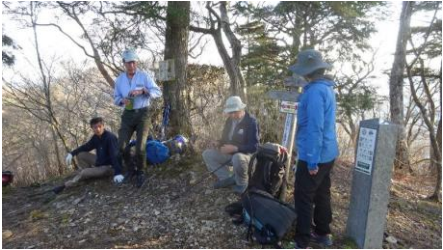
児嶋、梶野のお二人は何度も薪の補充をされ、小屋内は23℃を保ち、半袖で過ごせるほどだった。

午前4時半過ぎに全員起床、外気温は10℃だった。

朝食を済ませ、登山準備にかかる。荷揚げ品は、奥守岳の靡看板と杭、滝川辻にデポする緊急品の入ったオイル缶2個、山川さんから借用した小型チェンソー等だ。当初参加者は沖崎、児嶋、梶野の3名だったので、全てを一度に運ぶことはできず、滝川辻にデポ予定の長期保存水2リッター2本とオイル缶一個は来年にすると決めていたが、高橋、青木、坂田のお三方の参加で、全て運ぶことが出来た。5時45分、前鬼に向けて歩きだす。青木君は80リッター位のザックにオイル缶を縛り付け、高橋君は杭を杖代わりに、と手で持って運ぶ。水2リッターは青木、梶野がそれぞれ一個を、沖崎は靡看板をザックに入れて運ぶ。久々のロングコースで、ザックの重さも10kg近い。いきなり阿須迦利岳の急登が始まる。ゆっくり、休み休み歩を進めた。皆さん30分ほどで山頂に到着、私は36分を要した。



出発前に



阿須迦利岳で休憩



間違った踏み跡を塞ぐ



涅槃岳山頂の倒木



ロープを付け直す

証誠無漏岳手前のクサリ場もクリアー。クサリと取り付け部に異常なし。証誠無漏岳北側で、高橋君が指摘した中八人山の方に続く踏み跡があり、入り込まないように近くの木を切って通せんぼした。7時55分、涅槃岳に着く。予定通りに進んでいる。涅槃岳山頂付近で横たわっていたブナを切除した。大きな倒木は無いが、折れた木が時々あった。

ここまで来たら地蔵岳までアップダウンはない、ヤレヤレと思っていたが乾光門の先も急登があり、以前の記憶に自信が無くなった。9時20分、滝川辻に着く。オイル缶2個をデポする作業に取り掛かる。デポした場所は滝川辻の石柱から30m位奥守岳寄り、奥駈道の東側に5mほど下った倒木の根の部分で、北緯34度4分3秒12、東経135度53分28秒23になる。(収蔵物は別紙参照)



滝川辻に到着

非常用品2缶をデポ

テープでマーキング

児嶋さんは、いたずらで缶の蓋を開けられないか、と心配して、

枯れ木や石などで覆いを作り、容易に見えないようにしてしまっただけが激しく剥がれている。今後、他の看板もこうなるのが心配だ。帰宅後、村吉さんに報告した。



文字が剥がれていた

地蔵岳

天狗の稽古場を通過

地蔵岳手前の標識を手直しし、10時35分、地蔵岳(子守岳)に着いて早めの昼食とした。児嶋さんは滝川辻でオイル缶から解放されたが、いつも通り熱湯を持参してコーヒーを振る舞ってくれた。77歳になるが、前半の荷物は12kgはあっただろう。この辺りだったか、太古の辻方面から一人の年配者(80歳近い?)がやってきた。昨夜は深仙宿に泊まって、今日は証誠無漏岳までピストンして太尾登山口まで戻る。昨日は、楊枝の森迄ピストンし、これで吉野から本宮までが繋がった、素晴らしい尾根道だ。と喜んでいたら、元気な老人だ。

地蔵岳を出てすぐ、天狗の稽古場だ。久々にここを通過する、素晴らしいの一言で、何とも癒される。続いて嫁越峠にやってきた。西側の十津川村花瀬には12〜13軒の住居があり、明治時代にはマッチの軸を作るために多数の入村者があったが、徐々に衰退し、戦後残っていた三戸も退去して集落も消えた。花瀬から嫁越峠に至る道は滝川に沿って谷を登り、途中から山腹を辿って高度を上げ、嫁越峠に至ったようだが、使われなくなつて登山道も自然に戻り、判然としなくなったようだ。



奥守岳に靡看板を設置

案内標識を追加

11時55分、やっと奥守岳に到着した。沖崎、高橋は看板と杭から解放された。杭はスムーズに打ち込むことが出来、靡看板の設置は完了。今日のメインミッションは終了した。

今まで少し登って少し休む、の尺取虫登山だったが、ここからは、下り基調なのでピッチが上がる。

12時半過ぎに天狗山に到着したが、前後の笹がかなり伸びて、

登山道が見えにくい。登山道を覆っている笹は蘇莫岳前後、太古の辻近くまで続いていた。今後、この付近の笹刈りも課題となるだろう。

蘇莫岳ピークへの登りが始まる。急な上に長い。足元が笹で見えにくいところもあって、簡単には登らせてくれない。やっと仙人舞台石迄やってきた。ここの靡看板は未設定で、出来るだけ早い時期に笹刈りを兼ねて計画する必要がある。舞台石周辺で碑伝を探してみたが、近くには見当たらなかった。どこへ看板を立てるのが最適か、調べてみる必要があるようだ。



太古の辻に着く

穴が開いた登山道

左手山側にロープで誘導

午後1時47分、太古の辻に到着。二つ石の杭にキャップを被せて大休止。ここまでくれば後は下るだけ、ようやくゴールが見えてきた。午後2時前に前鬼に向けて出発、20分ほど歩いて熊の水付近で路床に穴が開いているのを先頭の青木君が見つけた。穴は40cmほどだが、その下の空間は4mに及ぶ。木の根がかるうじて支えに

なっている。人が通るたびに少しづつ土が落ちていて、危険な状態だ。ロープで通せんぼして、尾根道に登山道を誘導した。この場所は今後の雨で、更に穴が広がるのが予想される。二ツ岩手前の谷の崩落個所と併せ、この「金担ぎ坂」は年々厳しく荒れてきている。

午後2時50分、二ツ岩で休憩し、午後4時前、小中坊に到着。巡視・点検を終えた。長く厳しいコースだが、それを越えた感動と達成感のある一日だった。

最後に 一日を潰して車の回送にご協力頂いた畑林秀味君と、奥守岳までの長距離、杭を手に運んでくれた高橋君、急遽参加されてオイル缶などを運んでくれた青木、坂田のご両名に厚くお礼申し上げます。
(記：沖崎)

行動タイム

持経宿 05：48→06：20 阿須迎利岳→07：18 証誠無漏岳 07：57
涅槃岳→08：31 乾光門→09：27 滝川辻→09：56 般若岳→10：35 地藏岳→11：14 天狗の稽古場→11：24 嫁越峠→11：53 奥守岳→12：38 天狗山→13：36 仙人舞台石→13：48 太古の辻→14：55 二ツ岩→15：58 小中坊